

福 祉

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の方向性

ア 現行の高等学校学習指導要領の課題

中央教育審議会答申では、職業学科における課題を次のように整理している。

- ・ 科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・科学の変化や高度化への対応
- ・ 専門的な知識・技術の定着
- ・ 多様な課題に対応できる課題解決能力を育成
- ・ 産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層の充実
- ・ 大学等との接続など、生徒の進路の多様化への対応

イ 課題を踏まえた教科「福祉」の目標の在り方

科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術は変化するとともに高度化しているため、知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要である。そのため、社会を支え産業の発展を担う職業人として、各職業分野の社会的意義や役割などを体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させ、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応などの課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する必要がある。

また、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する必要がある。このことから、具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められる。

(2) 具体的な改善事項

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

教科「福祉」の教育内容については、職業人として必要な資質・能力を育成するために、従前から実施されている具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められている。このような学習については、解決すべき職業に関する課題を把握する「課題の発見」、関係する情報を収集して予想し仮説を立てる「課題解決の方向性の検討」、「計画の立案」、計画に基づき解決策を実践する「計画の実施」、結果を基に計画を検証する「振り返り」といった過程に整理することができる。この過程においては、例えば、「課題の発見」では、学びに向かう力や人間性として、よりよい社会の構築に向け課題を発見しようとする態度が、「計画の実施」では、思考力・判断力・表現力として、専門的な知識・技術を活用する力が育まれることが想定される。

イ 教育内容の改善・充実

教科「福祉」においては、福祉ニーズの高度化と多様化、倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働の推進、ICT・介護ロボットの進歩などを踏まえ、福祉を通して、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人を

育成するため、教育内容を次の方向で改善・充実を図ることが必要である。

- ① 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加
- ② 福祉従業者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加
- ③ 福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実
- ④ 福祉実践における多職種協働に関する学習の充実
- ⑤ 福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実

2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践例

科目「社会福祉基礎」は、社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てることを目標としている。その中で単元「人間関係とコミュニケーション」では、人間関係の形成に必要なとされる基本的なコミュニケーションの技法や社会福祉援助活動の概要について理解させることをねらいとしている。福祉援助活動において、重要な役割を担っているコミュニケーションを学習するため、ここでは、「社会福祉基礎」の「人間関係とコミュニケーション」を取り上げ、「習得・活用・探究」という学びの過程から「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、学習指導の実践例を紹介する。

科目名	社会福祉基礎	履修学年	1年生
単元名	(2) 人間関係とコミュニケーション ア 人間関係の形成 イ コミュニケーションの基礎		
単元の目標	人間関係を構築するための技法、及び対人関係形成のためのコミュニケーションの持つ意義や役割、基礎的な技法について理解させる。		
次程	学習内容とねらい	評価方法と規準	
基礎編			
第1次 (1時間)	<p>なぜコミュニケーションが必要なのかを考えさせ、社会福祉援助活動におけるコミュニケーションの持つ意義や役割の重要性を理解させる。</p> <p>【学習内容】 コミュニケーションの持つ意義・役割について学ぶ。 【ねらい】 コミュニケーション活動の意義や役割の重要性について考えさせる。</p> <p>この学習の前後で何を身に付け、何ができるようになったのか振り返りシートを用いて明確にする。《資料1参照》</p>	<p>【評価方法】 ワークシート観察 小テスト 【評価基準】 コミュニケーションの持つ意義や役割について考えを深めている。[知識・理解]</p>	
第2次 (1時間)	<p>コミュニケーションの基礎的な技法を学び、人間関係における重要性の理解とともに基礎的な技法を身に付ける。</p> <p>【学習内容】 コミュニケーションの基礎的な技法について学ぶ。 【ねらい】 言語的、非言語的コミュニケーション、ICTを用いたコミュニケーションについて理解し、それらが持つ意義を考えさせる。</p> <p>コミュニケーション時に配慮すべきことなどを学習した後、目が見えない、発語できないなどの状況を設定してロールプレイングを行うことで知識を活用できる機会を設ける。</p>	<p>【評価方法】 ワークシート、観察、小テスト 【評価基準】 言語的・非言語的コミュニケーションを用いて、人間関係を構築することができている。[技能]</p>	

<p>第3次 (1時間)</p>	<p>コミュニケーションの基礎的な技法を実践し、良好な人間関係の形成方法を考える。</p> <p>【学習内容】 傾聴・受容・共感の姿勢について学ぶ。 【ねらい】 良好な人間関係形成に必要な傾聴、受容、共感の姿勢について理解させる。</p> <p>高齢者役、介護者役を設定し、傾聴、受容、共感があることで人間関係形成に与える影響、良好な人間関係を形成するためにはどのような姿勢であるべきか探究を促す。</p>	<p>探究</p> <p>【評価方法】 ワークシート、小テスト 【評価基準】 コミュニケーションの基礎的な技法を理解し、その意義や役割を考察して、表現することができている。[思考・判断・表現]</p>
<p>応用編（主体的・対話的で深い学びへ）</p>		
<p>第4次 (1時間)</p>	<p>他者理解、自己理解の重要性について考え、コミュニケーションの基礎的な技法を用いて実践する力を身に付ける。</p> <p>【学習内容】 他者理解と自己理解について学ぶ。 【ねらい】 他者理解と自己理解が、援助活動を進めていく上でなぜ重要になるのかを考えさせる。</p> <p>コミュニケーションの基礎的な技法を用いてクラスメイトの情報収集・分析を行い、他者理解を深める。また、自分の考え、行動、感情など、自己理解を深める。</p> <p>主体的・対話的な学び</p>	<p>習得活用</p> <p>【評価方法】 ワークシート、観察 【評価基準】 コミュニケーションには相手との相互関係が大切あることを理解し、他者理解、自己理解を深めることができるように積極的に取り組んでいる。[関心・意欲・態度]</p> <p>コミュニケーションの基本的な知識・技法を生徒同士による協働的な学習により、生徒が主体的に学ぶことができる。</p>
<p>第5次 (2時間)</p>	<p>援助関係形成のためのコミュニケーションを実践から身に付ける。</p> <p>【学習内容】 コミュニケーション技法を意識した実践方法を学ぶ。 【ねらい】 習得した知識・技術を用いたコミュニケーションを実践させる。</p> <p>社会福祉施設に訪問、または来校してもらい、様々な方とコミュニケーションを図ることでコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>対話的で深い学び</p>	<p>探究</p> <p>【評価方法】 ワークシート、観察 【評価基準】 相手の状況に応じてコミュニケーション技法を考え、利用者の理解に必要なアセスメントができている。[思考・判断・表現]</p> <p>実際の利用者である、高齢者の方々とのコミュニケーション等、体験的な学習を通して、学びを深めることができる。</p>
<p>第6次 (1時間)</p>	<p>コミュニケーションによる援助関係形成の学びから生徒自身が「求められる援助者像」を考える。</p> <p>【学習内容】 これまでの学習内容から、援助者の役割について学ぶ。 【ねらい】 援助者に求められる知識や技術、資質を踏まえ、求められる援助者像を考えさせる。</p> <p>振り返りシートを用いて、生徒の学習の成果を把握する。《資料1参照》</p> <p>深い学び</p>	<p>探究</p> <p>【評価方法】 ワークシート 【評価基準】 体験的、実践的な学びを通して、援助者としてのあり方を探究している。[関心・意欲・態度]</p> <p>単元の学習を振り返ることで、コミュニケーションの知識や技法、求められる援助者像について、考えを深めることができる。</p>

1) 学びの成果が分かるシートの活用・・・《資料 1》

振り返りシート

番 氏名 _____

★今回の学習内容★

人間関係の形成とコミュニケーションの基礎

★評価について★

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価 規準	人間関係を形成する上でのコミュニケーションの技法に関心を持ち、福祉に携わる姿勢を追求する態度を身に付ける。	人間関係を形成する上でのコミュニケーションの技法に関して思考を深め、表現する能力を身に付ける。	言語的コミュニケーション及び非言語的コミュニケーションを駆使し、適切に人間関係を構築する技術を身に付ける。	人間関係を形成する上でのコミュニケーションの意義や役割、技法について理解している。
自己 評価	A・B・C	A・B・C	A・B・C	A・B・C

★学習前★（記載例）

コミュニケーションとは何か

- ・友達や家族などとの会話
- ・人との関係をつくるもの

どんな方法を使ってコミュニケーションを取っているか

- ・LINE がほとんど
- ・会話(言葉)

コミュニケーションを取るときに気を付けていること

- ・言葉、言い方

★学習後★（記載例）

コミュニケーションとは何か

- ・人と良い関係を築くために必要なもの
- ・信頼関係を築くために必要なもの

コミュニケーションについて学んだ後で人間関係に変化はあったか

- ・言葉だけでなく、表情や態度にも気を付けるようになった。
- ・一度考えてから返事をするようにした。
- ・自分の感情や考えだけでなく、相手の感情や考え方も受け入れる努力をしようと思う。

福祉施設に入所している高齢者とコミュニケーションを図った際に生かされたことはあるか

- ・言葉だけではコミュニケーションを取ることが難しい方がいたので、ボディタッチをしたり、表情を読み取ろうとした。
- ・楽しんでもらうために、声の大きさや明るい声になるようにトーンを上げてみた。
- ・うなずきなどを意識して話を聞いた。
- ・質問をするとき、高齢の方が理解しやすい言葉を選んで話をした。知らない言葉があつて教えていただくなど、その方の生きていた時代を知る事がコミュニケーションには大事だと思った。

他者との関係を築く上でどのように関わりたいと考えたか／どんな援助者を目指したいと考えたか

- ・自分が相手に与える影響を考えて関わらないと、知らないうちに相手を傷つけることがあると思うので、相手のことをきちんと考えてコミュニケーションを取れるようになりたい。
- ・施設の職員の方は、自分が聞き取れない言葉も聞き取ることができていた。利用者の方を理解しているからだと思う。利用者を理解できる介護士になりたい。

評価方法を事前に提示することで、生徒が見通しを持って学習に取り組めるようにする。

授業前後を比較することで、生徒の学びの状況を把握することができる。

習得した知識を活用することで、こういった力が身に付いたか教員も生徒も把握できる。
※客観的評価と自己評価のすり合わせが必要。

理想とする他者との関わり方を生徒が自主的に見いだせるようにする。

Topic

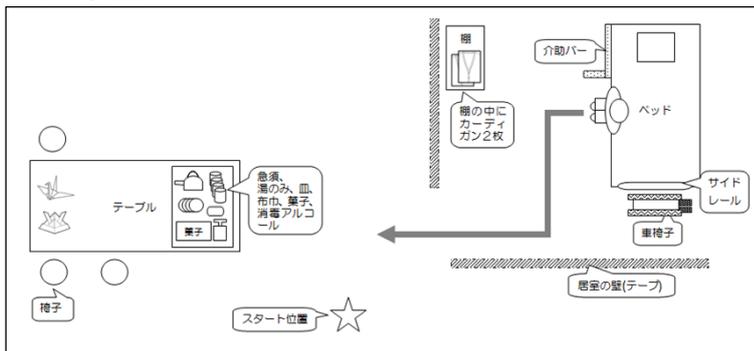
「介護技術コンテスト」 ～主催：全国福祉高等学校長会

福祉を学ぶ高校生の介護技術コンテストは、平成 23 年に鹿児島県で実施された全国産業教育フェアにおける「高校生介護技術コンテスト」から始まった。各都道府県予選の優秀校から書類審査で選考された代表校が参加し、2 人 1 組で介護技術を競うものである。北海道では、平成 28 年 8 月 23 日に第 1 回北海道地区高校生介護技術コンテストが、札幌の北翔大学を会場に行われ、5 チーム（5 校）が参加した。北海道予選で最優秀賞となった北海道置戸高校は北海道代表として全国高校生介護技術コンテストに出場し、見事優秀賞を受賞した。

<第 1 回北海道地区高校生介護技術コンテスト 課題>

北海雪子さん（80 歳・女性）は、1 年前に脳梗塞のため左上下肢麻痺となりました。介助があれば立位はとれますが、歩行はできません。更衣、移乗は一部介助が必要です。耳は聞こえにくいですが、相手の言うことは理解できます。北海雪子さんは常に「人の役に立つことをしたい」と思っています。今、居室のベッド上で端座位になっている北海雪子さんに、お茶会の時間が近づいていることを伝え上着を着ていただき、車いすでテーブルまで移動する介助をしてください。そして、お茶と菓子の準備をお願いしてください。

<会場図>



<主な審査項目>

介護技術	コミュニケーションが適切であったか
	個人を尊重できたか
	自己決定を尊重できたか
	自立に向けた支援ができたか
	安全や安楽への配慮ができたか
	個人・環境因子に基づいた支援ができたか
	危険行為はなかったか
アピール	手際よく介護できたか
	根拠に基づいた説明ができたか
	創意工夫を説明できたか
	実際に行った介護について説明できたか

<コンテストの様子>



<交流会の様子>



他の地区では見られない北海道という土地ならではの特色ある企画として、介護技術コンテスト当日の夜、参加した生徒同士で意見交換会があり、参加して感じたこと、入賞チームより学ぶべきことなどが話し合われた。